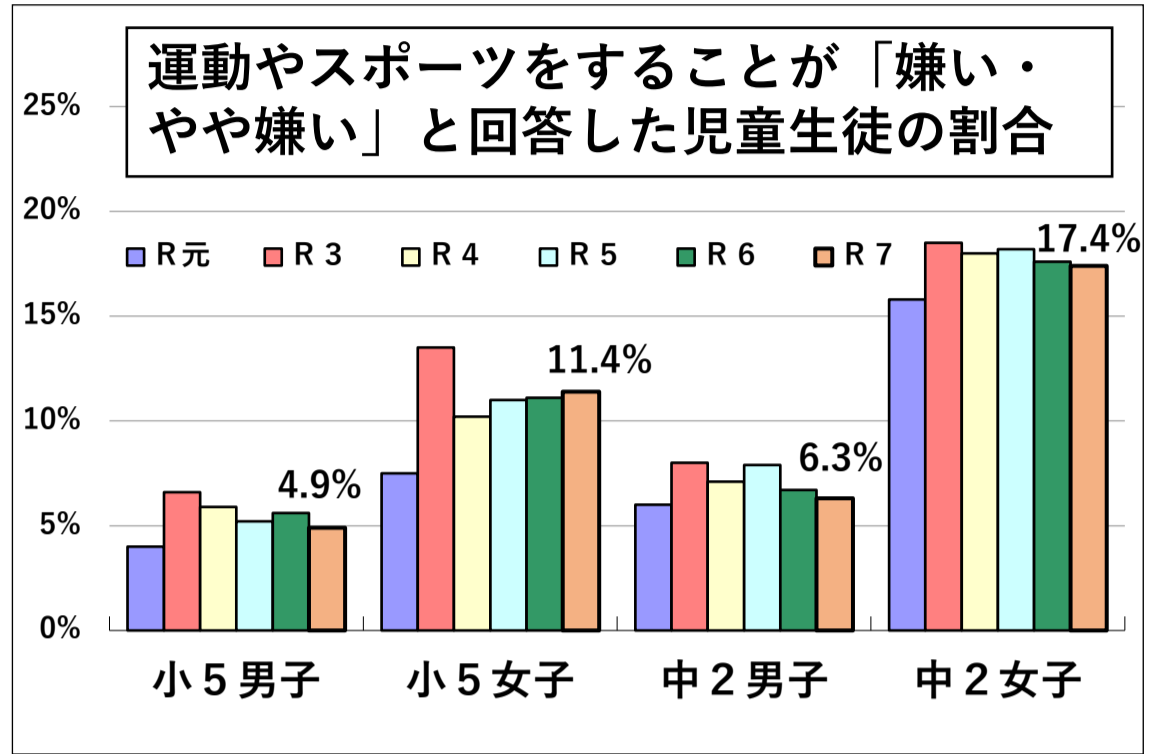
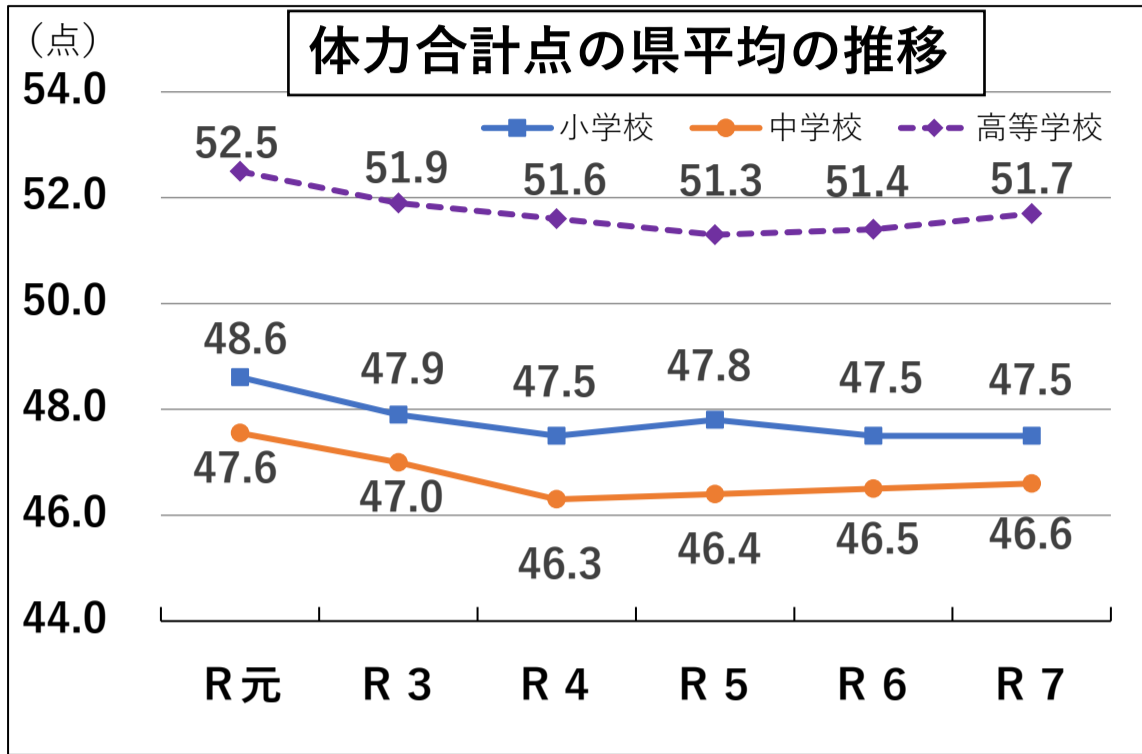


# 提言

## 「楽しい!」「もっとやりたい!」を 主体的な運動実践につなげよう

～全ての児童生徒が運動の楽しさを実感できる工夫を～



「R7 県新体力テスト」(秋田県教育委員会)より

「R7 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(スポーツ庁)より

「県新体力テスト」の結果から、体力合計点の県平均において、中学校では3年連続、高等学校では2年連続で前年度を上回るなど、わずかながら記録の上昇が見られます。一方、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、「運動が嫌い・やや嫌い」と回答する児童生徒が、依然として一定の割合で存在しています。さらなる体力向上や運動への消極的な意識の改善に向け、「する・みる・支える・知る」といった運動との多様な関わり方を通して得られる気付きや学びを、「もっとやってみたい」という意欲へつなげることも大切です。全ての児童生徒が「分かった」「できた」という喜びを実感し、「楽しい」「もっとやりたい」という充実感や運動への意欲を引き出す授業づくりをより一層進めましょう。併せて、学校教育活動全体を通じた取組も推進していきましょう。

### 「やりたい!」を引き出す取組を充実させよう

#### スモールステップ

- ・ 発問や声掛けの工夫
- ・ 段階的なめあての設定
- ・ 学習環境の整備 など

児童生徒が、小さな「分かった」「できた」という成功体験を積み重ね、運動の楽しさを味わいながら、次のステップに挑戦できるようにする。

#### ICTによる可視化

- ・ 動画の比較や分析
- ・ 運動記録の見える化
- ・ 客観的な自己分析 など

自分の姿や記録の推移を客観的に捉えることで、変容や成長を実感し、高い意欲を持って自己の課題解決に取り組めるようにする。

#### 運動環境づくり

- ・ 用具の活用
- ・ 多様な運動遊びの提示
- ・ 運動スペースの確保 など

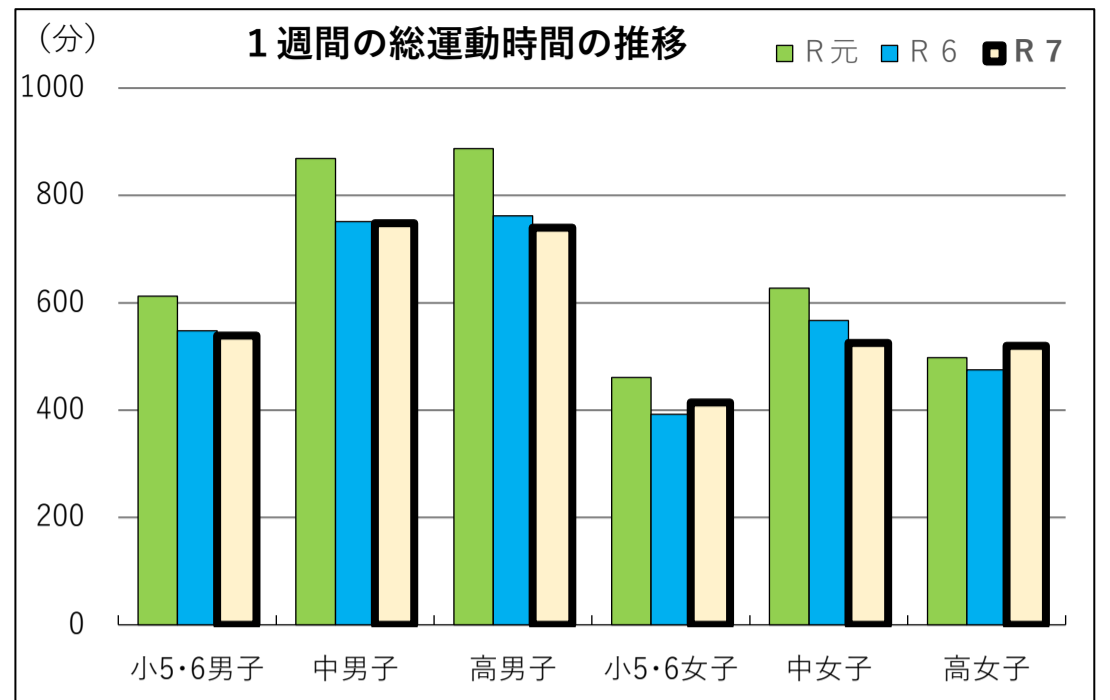
運動に親しむことができる環境を整えることで、主体的に運動に取り組む習慣の形成へとつなげることができるようにする。

様々な取組(効果的な授業実践、教材教具の工夫、ICTの活用方法、掲示物等)を校内で共有するなど、学校が一体となってよりよい授業づくりを進めていきましょう。

# 「もっとやりたい！」を「実践」につなげる取組を広げよう

全国的に運動への好意度が高い本県ですが、一方で「児童生徒のライフスタイル調査」において、コロナ禍の影響やスクリーンタイムの増加等もあり、1週間の総運動時間は全体的に減少傾向にあります。好意度が高い層は確かな「実践」へとつなげ、低い層には「楽しさ」を味わわせ動き出すきっかけをつくるのが重要です。そのために、学校での学びを授業の中だけでなく、実生活へと広げていくことができるよう、学校が主導して家庭や地域とつながり、働きかけていく取組を進めましょう。

全ての児童生徒が、自分の生活の中に運動を位置付け、生涯にわたって親しむことができる基盤づくりを、学校全体で推進していきましょう。



「R7児童生徒のライフスタイル調査」(秋田県教育委員会)より

## 家庭や地域とつながる「チーム学校」の取組を進めていこう！

### 【家庭との連携】

「新体力テスト分析シート」を活用して全国や県の平均値と比較し、結果や目標を家庭と共有するなど、学校と家庭が一体となり日常的に運動を実践できる環境を整える。



分析シートのリンク先

運動のよさや効果を紹介したり、親子で取り組むことのできる動画サイトを紹介したりし、実践をチェックシートで共有する。



「身体診断(セルフチェック)」(スポーツ庁より)

QRコード等を使用して、学校での取組を動画で紹介し、家庭での実践を促す。

### 【地域との連携】

総合型地域スポーツクラブや地区のコミュニティセンター等でのスポーツイベントと連携した取組を企画・実施する。(PTAでの親子体験会、外部講師派遣による出前授業等)

地域のスポーツ教室やサークル活動、運動施設の利用状況等、情報を収集・把握し、必要に応じた連携を図る。

家庭や地域を巻き込みながら、学校内外で運動やスポーツに親しむことができる機会と場をつくっていきましょう。

## 運動への意識を高め、日常生活を今よりもっとアクティブに！

### ○ 活用できる資料、事業等

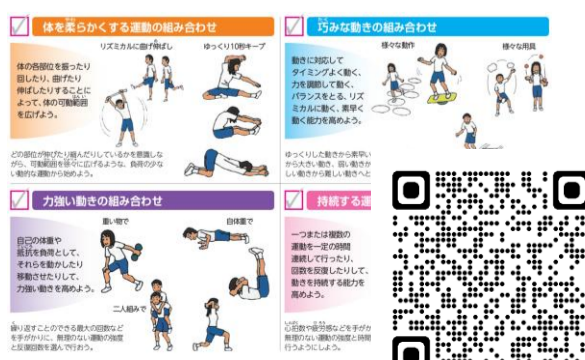
#### 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 【報告書】



体力向上に関する好事例として、旭川小学校と鷹巣中学校の取組が掲載されています。



#### 【記録シート】



#### 体育・保健体育授業サポート事業

スポーツの専門性を有する地域人材を活用して授業を行ってみませんか？

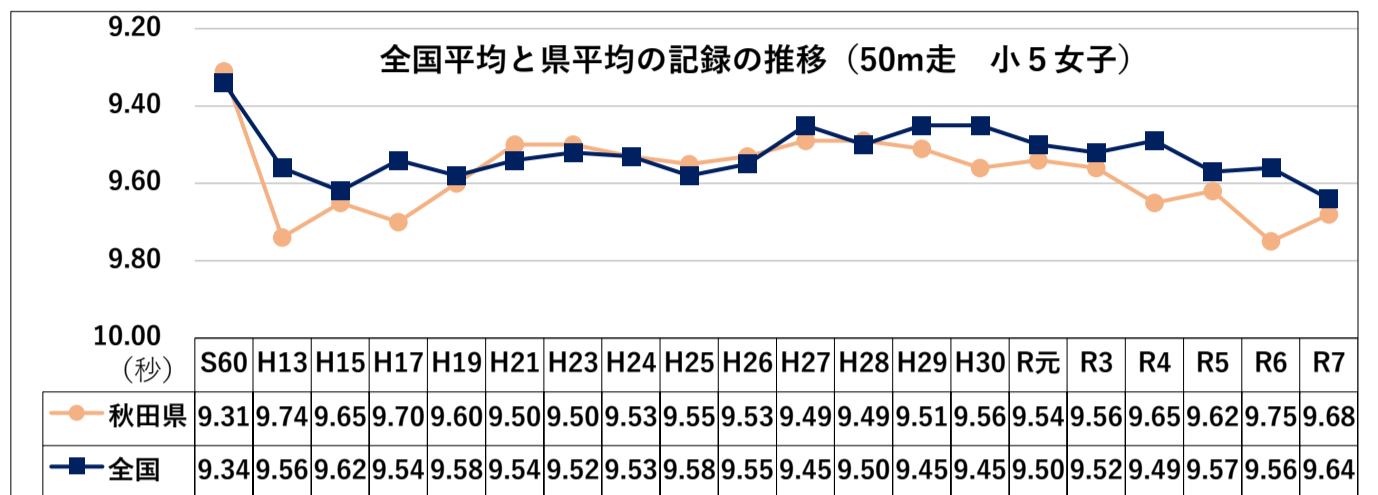
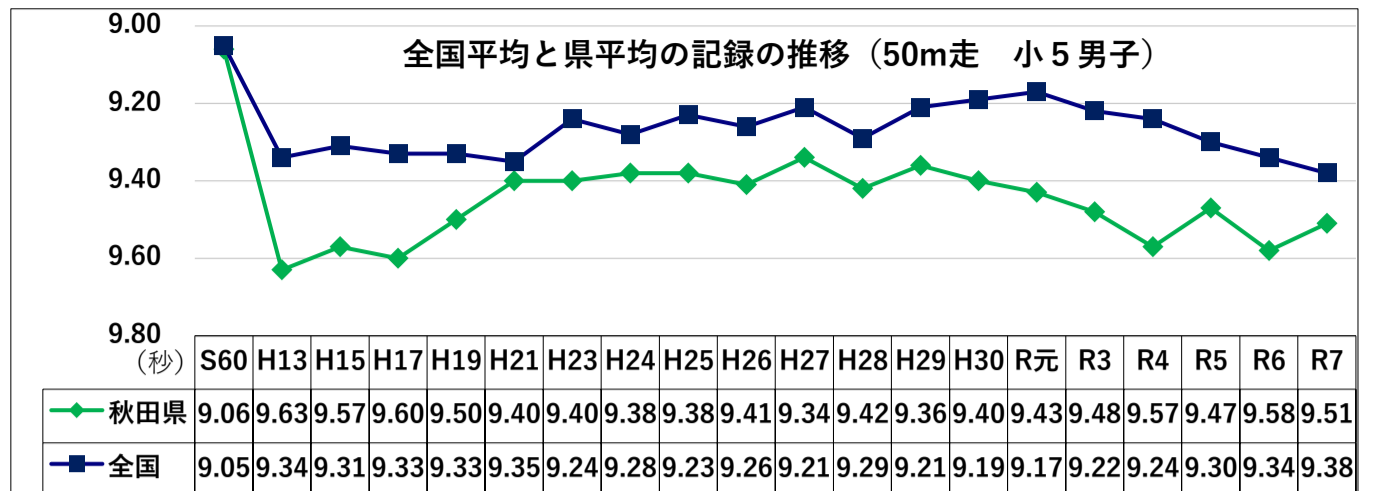
- ◇児童生徒は、専門的な指導を受けることができます。
- ◇教師は、児童生徒への効果的な指導方法等を知り、指導力の向上につなげることができます。(活用例：体づくり運動、器械運動、水泳など)

※詳細は、保健体育課へご連絡下さい。

# 『走る』楽しさを味わわせる取組を進めよう

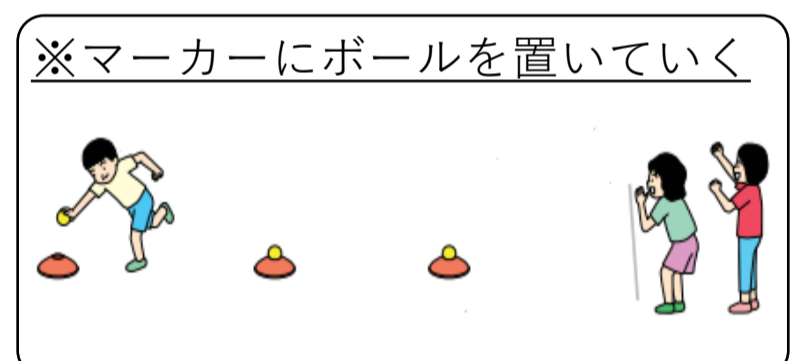
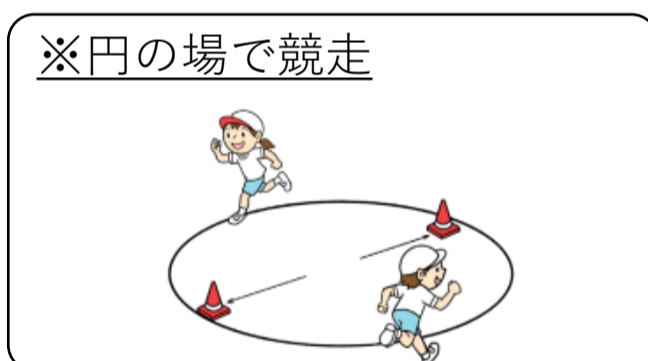
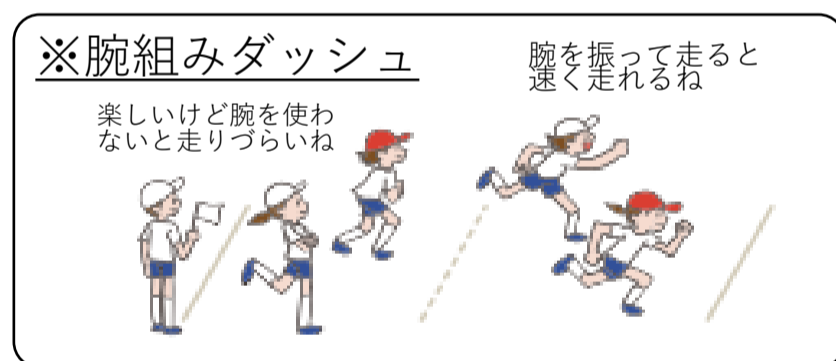
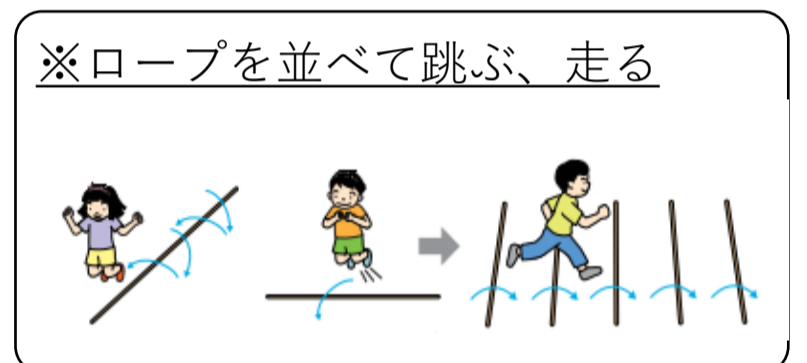
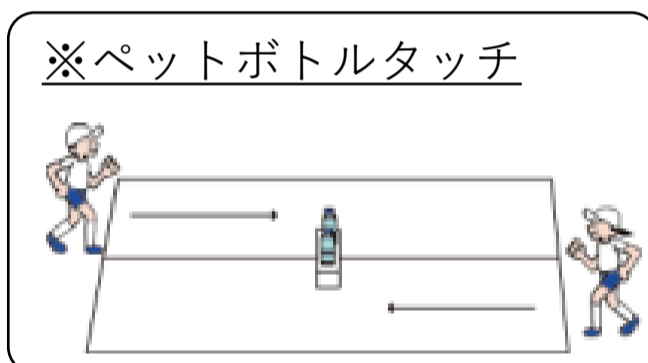
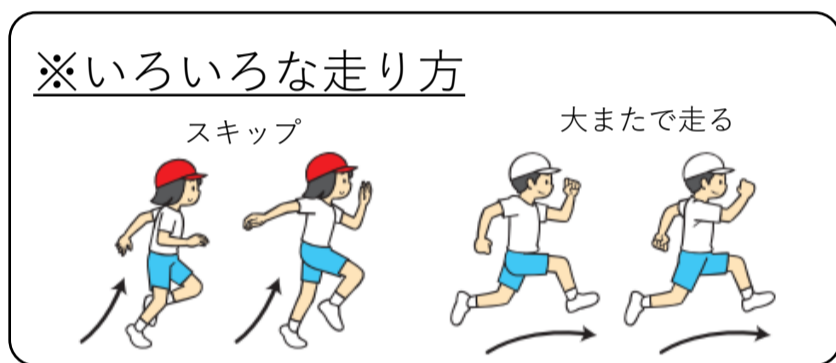
今年度、児童生徒が実力を十分に発揮できるよう、走る運動を十分に行ってから測定するなどの取組を推進しました。「県新体力テスト」では、小学校において5年生男女をはじめ、半数の学年男女で前年度の記録を上回りました。1週間の総運動時間が短い小学校で記録の向上が見られたことから、様々な走る運動の経験を通して、走る楽しさに触れる取組を工夫することの大切さが見いだされました。

児童生徒が爽快感や達成感等の楽しさを味わえるよう、多様な走る経験を積み重ね、走力の向上につながる取組を進めていきましょう。

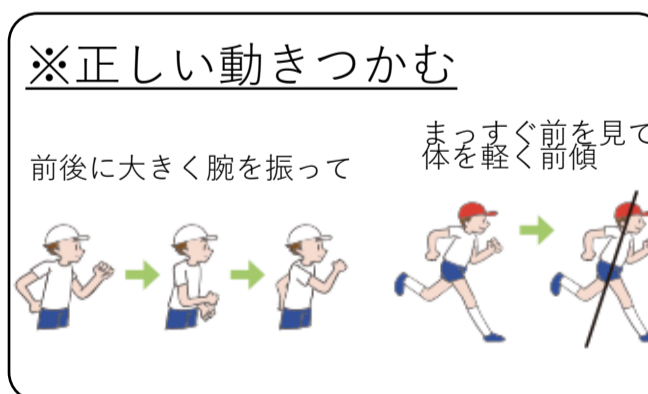
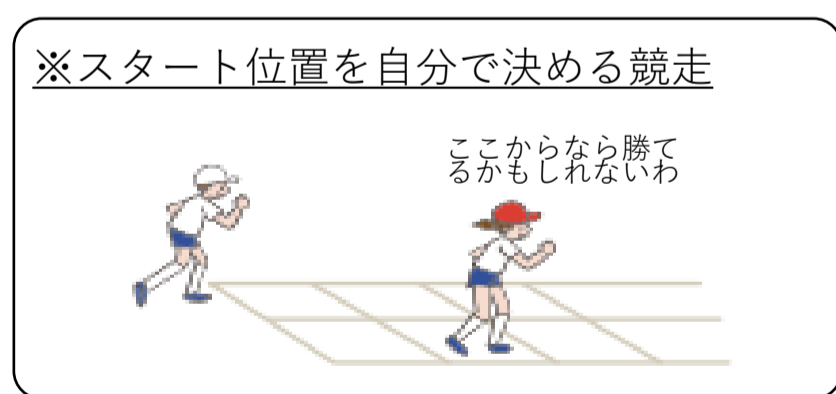


「R7 県新体力テスト」(秋田県教育委員会)より

## ～子どもが『走る』楽しさを味わうことができる取組 (例) ～



「アクティブチャイルドプログラム 運動遊びプログラムの紹介」(日本スポーツ協会)より



「小学校体育 (運動領域) 指導の手引」(スポーツ庁)より

全ての児童生徒が走る運動 (遊び) に親しみ、**楽しさを味わうことができる工夫を取り入れよう。**

### ○ 参考資料等

スポーツ庁HP  
「小学校体育 (運動領域) 指導の手引  
～楽しく身に付く体育の授業～」



日本スポーツ協会HP  
「アクティブチャイルドプログラム (ACP)」

